

# 海岸地域の高さ

海抜  
 ■ は、5m以下  
 ■ は、5m~10m



## 8月28日の1次避難場所

今回の海抜10m以上を条件に見直された海岸部の(津波)一次避難場所は、旧来からの物と合わせて37カ所になります。海岸部の高層建築も、これから避難場所として、受け入れをお願いしていく予定です。

◆ 本日に大地震・大津波が起こった時、移動に介助が必要な人や高齢者のみの家族(同居も含む)は、避難が大変だろう。その人達の避難はどうなるのだろうか? 支援や可否確認が必要になるのでは?

◆ 災害が発生した時の行政や消防団の機能は?

◆ 東北地方太平洋沖地震が起きた時、被災地の自治体職員や地元消防団はどのような初発行動がとれ、どのような行動がとれなかったのだろうか? 南房総市でも、それらの事例を参考に、研修や行動計画の点検等が必要なのでは?

◆ 避難所の安全性等は?

◆ 松田・海発の東地域は、海抜が5~10mにある。避難場所の安全性はどうだろうか? とにかく温石川から出来るだけ離れる必要があるのだが。

### 津波避難訓練後の課題は

よつな事柄が上りました。今後、引き続き検討していく必要があると考えます。

当日、避難所に集まった人達や、後日の地区内での話題には、次の

**防災自治能力の育成は?**  
 ◆「自分の安全は自分で守る」ことが大前提。各地区で主体的に防災意識を高めたり、具体的に体制づくりを進めていく必要があるのでは?

発行者 南房総市・和地域づくり協議会「WAO!」  
 連絡先 南房総市役所和支所内 地域づくり支援員  
 電話 支援員 0470-47-5955  
 支所 0470-47-3111  
 E-mail qq4u9y89n@royal.ocn.ne.jp

## 南房総市防災訓練を通して考える



右下の文章は、「和町町史(P1037)」に記載されているものです。

「真浦感徳院の石段の上から5段目まで津波が達した」といふ史実は、しばしば紹介されますが、和地区でも「村民全滅」という表現が用いられるような、地震や大津波による甚大な被害があったことが分かります。

これらの事実が物語るように、房総沖で大地震が起こった場合、激しい揺れと共に大津波が起こることは過去の事実が度々証明しています。

28日の訓練の震源域も、まさに房総沖を想定し行われたものです。勿論、3月11日の東北地方太平洋沖地震の教訓を基に、津波に対する避難訓練がその最重点となりました。津波は、約10mの巨大な高さが想定されました。



和町町史の岬上(竜宮様のある所)に京塚碑あり、明治廿九年道路工事の際、人骨累累々其数を知らず。慶長・元禄の震災の圧死、もしくは溺死者を一部人が埋葬せるもの。当時、この和村民全滅のま判然たるものあり。おもふに此都人といふは、此地取引の漁商なるべく、現在の石碑は工事発見の際、改めて建立せしもの。其当時の惨禍思ふべきである。(以下略 千葉県郷土志より引用)

田、海発、沼二区と中三原区の神田、小川区の向畑でした。

そこに居住する人数は4000人弱。そして、指示に従って避難した人数は、800人弱。その割合は約20%。およそ5人に1人ということになりました。これは、評価すべき数字です。

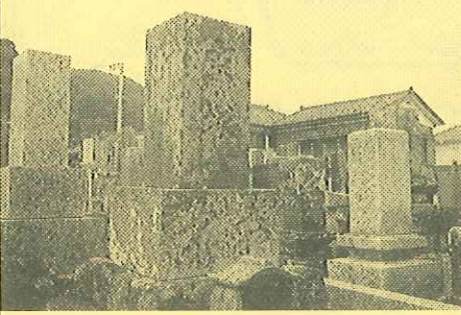
地区別に見てみると、和地区、小浦区、真浦区、向畑、白渚区が20%を大きく超えています。これらの地区は、過去の元禄地震の身近な被害記録や東北地方太平洋沖地震に関わる情報により、危機感には特に大きかつたものと推測されます。

しかし、10mを超える津波では、他地区も決して宥閑としてはいられません。裏の頁の地図の色分けでも分かるように、中三原区の神田も海抜10mを僅かに超える程度です。三原川を遡った津波が、神田に到達する可能性は十分にあり、沼二区によつては温石川伝いに、東小戸・沼まで。

今回の大地震では、「想定外」という言葉をよく聞きます。災害に対し、ハード(構造物)での対応には限りがあります。その点、ソフト(体制作り、行動訓練)での対応は、重ねれば重ねるほどその力は蓄えられていきます。

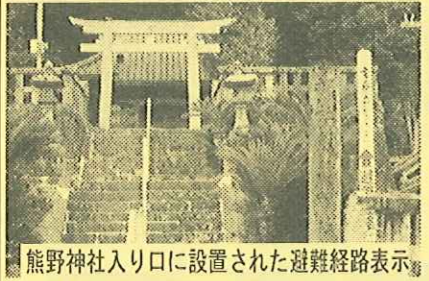
私達に出来る効果的な防災は、その辺にヒントがあります。

竜宮様脇にある京塚碑



10m近辺の地域です。そこでまず、防災訓練前に海抜10m以下の地点にある、一次避難場所が見直されました。これまでの避難場所に代わって、津波の避難場所に指定されたのが、裏の頁にある34カ所(19)です。

また、避難経路の明示が、安全な避難に繋がるとのことから、海水浴期間に使用されていた電柱の「避難経路表示」を新しく2カ所加え、引き続き利用することが申し合わせされました。



熊野神社入り口に設置された避難経路表示

普門寺入り口に設置された避難経路表示

### 訓練には多くの人が参加しました

今回の具体的な避難指示対象地域は、海岸部の「花園、柴、仁我浦、和、小浦、真浦、白渚、下三原、松田、沼二区」です。

8:30

午前8時30分  
南房総地域に  
マグニチュード8.2  
の巨大地震発生

避難指示とともに、石井市長を本部長とする南房総災害対策本部（訓練）が立ち上げられました



防災無線で避難指示



避難開始（仁我浦踏切付近）



南房総市災害対策本部立ち上げ

# ドキュメント 8.28

## 南房総市防災訓練

### 津波避難訓練+防災アトラクション

9:00

避難場所へは、交通障害を防ぐため、必ず徒歩で避難します

津波の一次避難場所の様子です



和田小学校の校門付近の様子です



普門寺に集まった人達はすべて月山まで上りました



小浦区で返田谷に集まった人達です



真浦区は神社の社務所に集まりました

各避難場所ごとの責任者が避難した住民の人数を数え、巡回してきた市職員に報告をしました

この後真浦区は、役員が中心となつて、消火栓の操作訓練を行いました。

9:30

津波避難訓練の結果報告

和田中学校会場  
（防災アトラクション）

和田中には、地域の火達・消防団員・中学生など、900人以上の人が集まりました



消防長から防災訓練参加者数が報告がされました



地区住民から防災訓練参加者数が報告されました

国道には警察官・消防団員が出で交通安全を確保しました



避難場所に集合した人数を確認した後、避難所ごとに解散しました



各地区からの報告を受け、避難訓練は終了しました

- 1. 配管工事組合 水道管復旧演示
- 2. 千倉ガス保安協会 初期消火体験

- 3. 航空自衛隊嶺岡分 順基地
- 4. 安房消防 負傷者救助演示

10:30



配管工事組合の水道管復旧の演示がされました



消火器の操作体験が行われました

中学校へ



避難者数等を本部長に報告しました



最終集計を支所で行いました

11:00



自衛隊嶺岡分順基地の隊員による倒壊家屋からの負傷者救出です



消防署隊員による3階からの負傷者救出です



中学生による脱出用シューターでの3階からの脱出です

閉会行事



閉会式では、防災対策本部長（市長）からの講評等がありました